

わってトマトを食べた。その落ちる汁を求めてたくさん魚が寄ってきたのを見て、驚きながら
「お魚さん、お前もひもじいか。」

と、口ずさみながら、ふと夕日をながめた。緑の中の夕日の美しかったこと。まだ美しい日本の
自然是確かにそこに残つていた。

戦争は、命をうばうものだ。自然をこわすものだ。文化をほろぼすものだ。二度と戦争を起こ
さないために、戦争を体験した者の一人でも多くの者が、たどえわずかでも戦争の悲さんさを語
りつながなければならない。それが私たち年よりの責任のような気がこのごろしてきた。

今夜は、いつになくじゅう実した気分にひとりながら、眠れそうである。

（名古屋市千種区在住）



A子への手紙

山 田 悅 子

A子さん、あと二、三時間でこの昭和五十七年も終わろうとし
ています。あなたにとつてこの五十七年はどんな一年だったでしょうか。

テレビは今、はなやかにこの一年のフィナーレをかざるよう、恒例の紅白歌合戦が始まるとしています。紅白のブレザーアジ姿の歌手がほほえんでステージに上がります。客席にはもうお正月の晴着姿の人々でいっぱいです。これが平和というものなのでしょうね。

私は、この光景を見ながら、ふと三十何年か前のことを、まるできのうのことのように思い出しました。

そのころの私は、ちょうど今画面で笑っているあの歌手と同じくらいの年でした。かすりのモンペ以外着ることもできず、日の丸のはち巻きをきりりとしめて、軍需工場でがんばっていました。その名は「挺身隊」。大和撫子(やまとなでしこ)とたえられ、國のため一筋(すじ)にがんばっていました。

そのことに、私は別に後悔はないのです。それは、結果的には為政者(いせいしゃ) 行う人の政策におどらされたのかも知れませんが、でも私達には、その道が最高の道と信じていましたから。

でも、戦争はもう許せません。人間の生命の尊さを忘れた戦争は、私はもう二度とあつてはならないと思います。

今でも私の脳裏(のうり)に焼きついているのは、家に爆弾の落ちた日のことです。私もまだ若かったので、自分の手で我が家を焼夷弾(しょういだん)から守るんだと、空をにらんで立っていました。手には火をたたき落とすためのおもちゃのような竹を一本持っているだけです。A子ちゃんは笑うでしょうが、その時の私は真剣でした。

その時です。やみの中で、

「これはいつもの焼夷弾どちがうぞ！早く防空壕の中へ入れ！」

というさけび声に、私たちはあわてて壕にとびこみました。その時、

「私、こんな入口の所いやだ。」

という泣き声がしました。どうしたことでしょう。壕の中にいるとばかり思っていたA子ちゃんのママでした。当時五才くらいのあなたのママは、逃げおくれて一番ビリに壕へ飛びこんでましたのでしょう。その時となりにいた近所のおばさんが、

「かわいそうね、場所をかわってあげるから中の方へ入りなさい。」
と席をゆずつてくださいました。

その時です。天地をゆるがすような大爆音で、壕の中は身体がぶつかり合うくらいで、天んじょうからばらばらと砂が落ちてきて、目もあけていられなくなりました。それが終わり、やつと我にかえり、おたがいの無事をたしかめ合つていますと、あなたのママが、

「おばちゃんが返事をしないよ！」

ときけばじやないですか。びっくりして壕の戸を開け、月明かりでその人を見ると、その人はもう死んでいました。壕の入口のふたをふとばした破片が、背中からその人の心臓を直撃したのです。

本当にちよつとした好意が、その人とあなたのママとの運命をかえてしまったのです。あの時その人が席をかわつてくださいなければ、おそらくあなたのママは、今この世にいないことで

しよう。そして、もちろんあなたも……。あなたの生命は、そうして得たものなのです。

でも、当時を思い出すと、私たちは、その人の死をそんなに悲しんではいませんでした。『国のためにささげた』という気持ちでした。私も明日は『国のために花と散ろう』という悲壮感(かなしみで心がいたむこと)だけでした。人の生命を国のためにという美名のもとで、軽々しく考えていました。平和とともに冷静な心を取りもどした今では考えられないことです。どんな立派な人の生命も、野に咲く名もない小さな花の命も、それにたわむれるちようちよの命も等しく大切なものです。その生命をいとおしんでいきたいと思います。

A子ちゃん、あなたもそう思いませんか。どうか大きくなつてりっぱな大人になつてください。そうして、他人の心の痛みや悲しみのわかる人になつてください。どんな小さな生命も大切に守る心を忘れない人になつてください。

年の終わりのお便りが、なんだか暗い手紙になつてしましましたね。お許しください。

もうすぐ除夜の鐘の音が聞こえてくるでしょう。静かにおだやかに今年もくれようとしています。

どうぞ来年も、平和な年でありますよういのりつつ、この手紙を終わります。お元気でね。

さよなら

悦子

(名古屋市千種区在住)